

北朝鮮の強制収容所をなくすアクションの会「NO FENCE」

会報 かいはろノーフエンス



(NO FENCE IN NORTH KOREA)

NO FENCE

E-mail: nf-staff@netlive.ne.jp

NO FENCE

ひとりの人間として、人類の歴史に禍根を残さないために、山の奥に封じ込められ、いのちの尊厳を冒瀆されている人たちを放置しない。

vol. 16

2012年 6月

〒102-0093 千代田区平河町1-5-7-203 TEL&FAX 03-3262-7473 <http://nofence.netlive.ne.jp> 【郵便番号口番】 NO FENCE / 00180-1-707147

「廃絶ロードマップ」策定のヒント

NO FENCE 代表: 砂川昌順

北朝鮮強制収容所廃絶に向けたロードマップ策定のヒントは、歴史の中に埋もれているのだろうか。「歴史は繰り返す」を英語で”History repeats itself”という。歴史に学ぶことの大切さを暗黙に示唆したフレーズだが、”We learn from history that we fail to learn from history”と言い換えたい。歴史から学ぶことを怠れば、同じ過ちを繰り返すことになるからだ。

NO FENCEは2009年に6月、オバマ大統領のブーヘンヴァルト強制収容所跡の訪問に際し、大統領に書簡を送った。なぜ送ったのか。それは、歴史の中に北朝鮮強制収容所との類似性があったからだ。

1939年、英国政府はナチの残虐性に関する白書を発行した。世界人権宣言の生みの親と言われるH. G. Wellsは、1940年の『人間の権利』の中で白書について触れている。1939年9月、ヒトラーはポーランドを侵略。同時に英国政府は、ドイツの強制収容所に関する資料を白書として公表した。

Wellsは当時、10か条の人権憲章を草案し、その普及を図っていた。1939年9月、英国はドイツと戦闘状態に入った。Wellsは戦地に向かう英国青年たちに草案した憲章と白書を見せるのだが、実態を知り得るひとかけらの情報さえも持ち得ない青年たちは「絶対にあり得ない」と白書の内容を信じなかった。

戦後、ユダヤ人亡命者たちの証言により、強制収容所の存在、その実態が次第に明るみになった。当初は信じようとしなかった人たちが驚愕の事実を知り、「あまりにも酷い！二度とこんなことがあってはならない！（These Nazis are too bad. Such things must happen no more on earth!）」と叫んだのだった。

この内容は、1941年に当時1ドル販売されていた『The Mark of the Swastika (かぎ十字のしるし)』という本に記載されている。この本や白書によって、世界はナチの強制収容所の実態を知ることができたのだが、時既に遅かった。

“二度とあってはならない”類似の悲劇が、繰り返されている。歴史に背を向けたときに、人類は再び大きな過ちを犯すことになるだろう。独裁者のほくそ笑む裏で、今この時も、多くの罪のない人たちが死と隣り合わせの中で恥辱を受け、あるいは残虐にも死にいたらしめられている。その現実を一人でも多くの人に伝え、悲劇を断ち切るこそ、NO FENCE の役割だと信じる。活動の理念に立ち返り、廃絶に向けたロードマップを描きたい。

金正日の死亡によって、三男の金正恩が最高権力者の地位を継承した。継承を云々するつもりはない。だが、人類は歴史の過ちが繰り返えられることを絶対に許してはいけない。歴史を置き去りにしたとき、悲劇は生まれる。学ぶには大きすぎる犠牲を伴って。

ゲンサー氏ら請願書（4. 3文書）とその注から

教えられたこと

副代表 小川 晴久

5月の連休明けにお届けしたゲンサー氏らの請願書（4. 3文書）の原注の翻訳を選ばせながら、今回お送りします。原注の146と199から大事な二つのことを教えられました。その二つのことは、NO FENCEの目的である北朝鮮の強制収容所の廃絶のための方法＝道筋、昨年9月8日に生まれた ICNK(北朝鮮の人道犯罪を阻止する国際NGO連合)の名称理解に関わることであります。二つのこととは、人道犯罪(crimes against humanity)の意味と”保護する責任“(The Responsibility to Protect)のことです。

(一) 人道犯罪とは何か

北朝鮮の強制収容所の体験者の手記を読んだ人ならば、余りのひどい人権侵害のため凄惨な怒りに駆られると思います。あらゆる犯罪がそこで行われているため、人道犯罪の最たるものと受け止めてきました。昨年9月に誕生した ICNK の会名の中にある人道犯罪(または人道に対する罪)の語に対しても、北朝鮮におけるその最たるものは、強制収容所だと理解して、人道犯罪が具体的に何を意味するかについては考えてきませんでした。ところが4. 3文書では、第三章 B で、ローマ規程第7条にある人道犯罪の11項目に照らして具体的に分析されているではありませんか。

ローマ規程とは、2002年7月に発足した国際刑事裁判所の規程で、1998年ローマで制定されたので、略称ローマ規程と呼ばれています。その第7条は Crimes against Humanity(人道に対する罪＝人道犯罪)の定義が行われていて、11項目からなります。(1)殺人、(2)根絶(絶滅)、(3)奴隷化、(4)追放または強制移送、(5)投獄または他のひどい身体的自由の剥奪、(6)拷問、(7)レイプ・性的奴隷化・強制売春などの性暴力、(8)政治的・民族的・文化的・宗教的などの迫害、(9)強制失踪、(10)アパルトヘイト、(11)その他の身体や精神の健康を害する非人間的な行為。そしてこれらの行為が広範囲にわたり、組織的で、しかも意図的に行われているという条件が付きまします。

4. 3文書では11項目のうち7項目について、強制収容所内の犯罪が認定されています。上記の1, 2, 3, 5, 6, 8, 9です。7も取り上げられていていいものです。興味深いのは、強制収容所に囚われた人々は、全員9の強制失踪ともされていることです。どこに連れて行かれたのかが、外部の者に全くわからないわけですから、強制失踪です。北朝鮮当局が、人工衛星写真や体験者の手記で存在が明々白々な強制収容所を、

そんなものは存在しないと厚顔にも否定しているのですから、囚われている人たちは全員が強制失踪者といっているわけでは、

このようなローマ規程の人道犯罪規程による北朝鮮強制収容所犯罪の分析と認定は、注196と199によって、2007年にCSW(クリスチャンソリダリティーワールドワイド)とDavid Hawk氏(フリーダムハウスから発表)の2箇所が行っていることがわかりました。なお調べていくと、その前年の2006年10月に北朝鮮人権アメリカ委員会とDLA PIPERが共同で出した“Failure to Protect---A Call for the UN Security Council to Act in North Korea”という報告書で、先駆的にやっていることも、わかりました。この三つとも11項目のうち、アパルトヘイトを除くほぼ10項目が該当すると分析しています。ですから、ICNKが北朝鮮の人道犯罪と言うときには、ローマ規程の10項目全てが犯されているという認識に基づいていると、理解すべきです。北朝鮮の強制収容所が人道犯罪の最たる者と言う理解は全く正しいのですが、今後はローマ規程の10項目が全て行われている所と言う理解が必要です。国際社会はこのような認識を始めて既に6年が経過しているのです。

一般化すれば、今後人道犯罪と言うときは、ローマ規程第7条の11項目の規程を念頭に置くべきだということです。

(二) The Responsibility to Protect(保護する責任)とは何か

注146を手掛かりに、コンピューターでThe Responsibility to Protectを検索欄に入れてみますと、大事なことがわかってきます。このドクトリン(主義、原則)は、2005年9月のワールド・サミットで打ち出され、翌10月国連総会で満場一致で採択されたもので、次の3か条からなります。

- (a)各国政府は、自国民をジェノサイド、戦争犯罪、民族浄化、人道犯罪から保護する責任がある。
- (b)国際社会は、それを支援すべきである。
- (c)しかしその政府が、それに失敗した場合、国際社会はその国の国民を守る責任がある。先ず平和的な方法で、必要ならば、安保理の決議を経て軍事的な方法も可能とする。

上記3か条の中で、重要なのは(c)です。各国の独立性、自立性が大事ですから、一般的に内政不干涉が国際社会の原則とされてきました。しかし(c)は国際社会が内政に干渉しなければならない場合があることを、認めた新しいドクトリン(原則)です。この原則が生まれるキッカケは、1994年に発生したアフリカのルワンダで起きた大虐殺(ジェノサイド)であったようです。当時国連事務総長コーヒン・アナン氏が2000年4月に出したミレニアムレポートの中で国際社会に向かって発した問い、“もし人道主義的干渉がその国の尊厳に対する受け入れ難い襲撃であるならば、人間性を犯す巨大で組織的な人権侵害に我々国際社会はどう対処すべきか”に答えて、まずカナダの外務省が“干渉(調停)と国家の尊厳に関する国際連合“(ICISS)を2000年9月に結成します。2001年12月ICISSは”The Responsibility to Protect”という報告書を発表。2005年African Union(コンゴを除く全アフリカ諸国参加)はその憲章作りの中で、会議の決定によって参加国に介入する権利を認めたといっています。このような経緯を経て、2005年9月ワールドサミットで上記のような内容のThe Responsibility to Protect 原則(ドクトリン)が決議され、翌月国連総会で承認されます。このドクトリ

ンは国際社会の新しい原則と言っていいものです。早速2006年10月に出た前記“Failure to Protect”で、このドクトリンが北朝鮮に適用されました。原注146によって、ゲンサー氏らが“The Responsibility to Protect: The Promise of Stopping Mass Atrocities in Our Time” (Oxford, 2012) と言う本を出していることを知りましたが、北朝鮮が上記(c)のケースに該当するとして、ケーススタディズとして取り上げられています。このような認識も国際社会ですでに始まっています。

北朝鮮の強制収容所のひどさが、ローマ規程の人道犯罪規定で分析・把握される所まで来ていること、そのひどい人道犯罪を北朝鮮政府が率先して自国民に対し行っているため、新しいドクトリンである The Responsibility to Protect を、即ち国際社会の人道的介入を、急いでしなければならないという認識が、国際社会で形成されています。これが北朝鮮強制収容所を見る今日の国際水準です。

証拠隠滅のための抹殺が進行中なのか？

事務局長 宋 允復

当会として看過できない収容所関連の報が3月、5月に相次いでもたらされた。

詳細は下に翻訳・添付した元記事をお読みいただきたいが、

・会寧市所在の22号管理所が閉鎖され、約1万5千人の囚人が化城郡の16号管理所に移送された

・移送先の16号にも囚人が数千ないし一万人ほどいたはずであるが、なぜかがら空きであった

—という。

報じた米国の自由アジア放送(RFA) 文星輝(ムン・ソンフィ)記者は脱北者出身で元Daily NK記者であり、咸鏡北道の複数の当局者から入手する情報の確度、質量を評価されRFAに一昨年スカウトされている。

3月の初報に次いで5月に経過を報じており、そのディテールから宋は確度の高いものと判断した。

16号管理所は北朝鮮の地下核実験場に隣接しており、当会会員は両者の関わりについて既にお聞きになっているはずである。

2006年10月の第一回地下核実験後、元収容所警備兵だった安明哲氏は概要以下を証言した。

- ・ 1987年から94年にかけて、会寧、鏡城、化城の各収容所の若く健康な囚人がトラックに載せられ豊溪里萬塔山に「大建設」の名目で送り込まれた。
- ・ この「大建設」に送り込まれた人数は数千人に上るが、一人も生きて帰って来なかったため、囚人の間ではこの動員は恐怖の的であった。
- ・ 当時この「大建設」が何を目的としたものかまったく分からなかったが、核実験を実施した今になって振り返ると、核実験場のトンネル工事だったと理解できる。

朝鮮日報記者だった姜哲煥氏は、この安証言をベースに、さらに吉州郡出身の脱北者への聞き取りから、この核実験の秘密保持が北朝鮮国内の周辺地域に対して徹底できた理由は、核実験場の工事を収容所の囚人で賄ったが故であり、工事終了後この囚人たちは抹殺されたのではないかとの推測を公にしている。

我々NO FENCEとして、会寧22号閉鎖が事実であれば肯定的に捉えるべきところだが、囚人移送先の化城16号ががら空きだったとの報には危惧の念を抱かざるを得ない。

収容所の閉鎖が収容者の抹殺を伴う形で進められている可能性が容易に想定されるか

らである。

今年の金正日、金日成誕生日を契機に恩赦が施され、その対象として労働鍛錬隊、集結所、教化所のみならず一部政治犯収容所の囚人も含まれるとの情報を当会は今年1月入手している。そしてまだ未確認ながら、ごく少数「出てきた」との話を聞いているが、それはあくまで革命化区域に関するものである。

会寧 22 号、化城 16 号はともに完全統制区域であって、特に化城 16 号は、金日成の政敵、金正日への権力世襲に反対した者、体制転覆企図者といった一級の政治犯本人が送り込まれ、生きては出られないところとして知られている。

したがって化城 16 号の囚人が釈放されていたという可能性は薄い。

当会が日本に招いて証言していただいた収容所出身者の幾人もが憂慮し、訴えていたことがある。

それは、「収容所では、有事の際に証拠隠滅のため囚人を皆殺しにする手はずがすでに整っており、そのための訓練も実施している、北朝鮮当局が決してそうした蛮行を犯さないよう、水面下からでも主要国が圧力をかけてほしい」ということであった。

その憂慮が少し形を変えて現実のものとなっているのではないか。

ここで改めて国際社会が北朝鮮当局に対して警告を発さなければならない。

NO FENCE は ICNK その他のルートを通じて、この問題を提起していく所存である。

北 化城 16 号管理所のミステリー

ソウル・ムン・ソンフィ moons@rfa.org 2012-05-17

http://www.rfa.org/korean/in_focus/prisonermissing-05172012103538.html

閉鎖された咸鏡北道（ハムギョンブクド）、会寧（フェリョン）22 号管理所収監者が咸鏡北道化城（ファソン）16 号管理所に移送された件に関し、元々いたはずの 16 号管理所収監者の行方について憶測とデマが出回っています。

去る 3 月中旬、私ども自由アジア放送は、北朝鮮当局が秘密裏に会寧 22 号管理所（政治犯収容所）を閉鎖するという便りを伝えました。

会寧 22 号管理所収監者の大部分が化城 16 号管理所に移されたと分かったのですが、その内幕をめぐって住民の間に疑問が生じているという便りです。

最近連絡がついた咸鏡北道の消息筋は「化城 16 号管理所がガラ空きになって代わりに会寧 22 号管理所の収監者を入れた」「16 号管理所がなぜ空くことになったのか真偽不明のデマがたくさん回っている」と伝えました。

自由アジア放送を通じてすでに報道された通り、咸鏡北道会寧市行營（ヘンヨン）里付近に位置する政治犯収容所『会寧 22 号管理所』は今年 3 月中旬、秘密裏に閉鎖され、咸鏡北道明洞（ミョンガン）郡にある『化城 16 号管理所』に統合されました。

22 号管理所が閉鎖される当時まで内部管理を受け持った保衛員はもちろん、管理所を守った警備隊の兵士たちも収監者をどこに移すのか知りませんでした。一部では漠然とした推測で化城 16 号と統合するのだらうと判断しましたが、これは会寧 22 号管理所と近いという理由でのことで、その内幕については分かりませんでした。

消息筋は「22 号管理所保衛員の大部分が収監者護送に動員され、最近になって家族を連れに戻ってきた」「彼らを通じて 22 号管理所収監者が移された当時 16 号管理所は完全に空いていたという事実が知らされた」と話しました。

また、その間管理所内部で繰り広げられることに関心の高かった住民たちが 16 号収容所がガラ

空きだったという事実疑問と恐怖を感じており、22号管理所から移された収監者も彼らのように跡形もなく消えるのではないかという話が回っていると説明しました。

他の咸鏡北道消息筋も「16号管理所周辺には舞水端をはじめとする秘密軍事基地が多い」「収監者がこれら秘密軍事基地建設に動員されて死に至ると考える人々が大部分」と主張しました。このほかにも噂は多いもののどれ一つ明白なものはなく、労働能力がない子供や老人たちはどうなったのかについても論議が多いと付け加えました。

これと関連して、飢えと病気、苛酷な労働だけでは収監者皆が一度に死亡することはないという理由を挙げ、16号収容所内で生体実験や化学武器実験といった残酷行為が繰り返された可能性にも注目していると強調しました。

北、会寧 22 号政治犯収容所を閉鎖するのか？

ソウル・ムン・ソンフィ moons@rfa.org 2012-03-20

http://www.rfa.org/korean/in_focus/politicalprison-03202012110601.html?searchterm=%ED%9A%8C%EB%A0%B9%20%EC%88%98%EC%9A%A9%EC%86%8C

北朝鮮が朝中国境沿線周辺に位置する政治犯収容所 会寧 22 号管理所の閉鎖作業を極秘裏に進めていると複数の咸鏡北道消息筋が伝えてきました。

収閉鎖に関する噂が広がる中、住民の間では金正恩政権に対する不安と期待が交錯しているといえます。

最近連絡がついた咸鏡北道消息筋は「会寧 22 号管理所が秘密裏に他所に移りつつあることが明らかだ」「管理所閉鎖が決定され、管理所労働者は周辺の協同農場に配置されることになったが、一部労働者がこっそり抜け出し他の職業を探したことから、この事実が外部に伝わった」と明らかにしました。

また他の咸鏡北道消息筋は「しばらく前から 22 号管理所の囚人を移送するために市保衛部と保安部の人員が夜間に動員され、囚人護送列車周辺を監視している」「動員された保衛員すら囚人をどこに移すのか知らずにいる」と話しました。

消息筋によれば会寧 22 号管理所には管理所警備を担う保衛員と警備隊軍人の他に、区域党委員会と鉄道員、逓信所(郵便局)をはじめとして少なくない外部勤労者がいるとのことでした。

これらの相当数が周辺協同農場に配置されることに不満を抱き、新たな職業を探すためにこっそりと統制区域を抜け出したことで、22 号管理所閉鎖の事実が住民に漏れたというのです。

22 号管理所が閉鎖されるという便りに住民が神経を尖らせる理由は、管理所囚人をどこに移すのかによって今後の金正恩政権の動きを予測できるためだと消息筋は強調しました。

管理所収監者移送の原因について様々な説が回っていますが、今後金正恩政権が政治犯収容所を次第に縮小、閉鎖するという見方もあります。この仮説が事実と判明すれば、改革開放の準備に入ったとも受け取れるので住民の関心が集中していると消息筋は説明しました。

この期待混じりの見方とは別に、保衛部幹部をはじめ少なくない住民の中では、会寧 22 号管理所の収容人員が減り、化城 16 号管理所と統合するだけとの判断も有力だと消息筋は伝えました。実際に統制区域を抜け出した外部勤労者は、1980 年代には 6 万人程度を収容した 22 号管理所が、1990 年代に飢餓と苛酷な生活苦によって人員が引き続き減少し、最近では 1 万 5 千人ほどになっていたと証言しています。

また、最近中国の航空偵察が強化され、やむをえず管理所を移すほかはなかったという説、炭鉱部分の収監者は残し、その他の収監者を 16 号管理所に移して軍事基地建設に動員するという推測もあり、住民の不安を助長していると消息筋は付け加えました。

シオルティ女史の感慨

宋 允復

今年で九年目となった North Korea Freedom Week(ソウルで 4/23-51).

Suzanne Scholte 氏から送られてきた総括報告を一読、ようやく峠を越えて展望が開けてきたという女史の感慨、悦びに満ちている。共有したい。

●北朝鮮人権問題はその重要性を議論する段階は過ぎ、国際社会の重要課題として認知され定着した。これはこの問題を様々に訴えてきた我々皆の成果である。

2万5千人を超える脱北者たちの証言と確たる証拠によって、北朝鮮人権問題はもはや論争の対象ではなくなった。ついに各国政府が人権問題を安保問題と等しく扱うようになった。

● 脱北者の勇気と献身に我々は心を打たれ続けた。

いくつかの例を

- ・ 北朝鮮当局の執拗な攻撃にも関わらず戦い続けている自由北韓放送の金ソンミンさん。
- ・ モンゴルのゴビ砂漠をコンパス一つで渡った女性の話
- ・ 安赫(アンヒョク)さんが2年の歳月を掛け、200人の脱北者から聞き取りしてドキュメンタリー映画を作った。『48M』という題。中朝の川幅の最も狭いところはその距離というところから取った題と思われるが、シオルティさんはこの作品を「パワフル」と評して、今年夏にプレミア上映会をするつもり。我々も日本でやりたいものですね。
- 最近の脱北者が語るには、かつては8割方が飢えその他の苦しみから逃れるためであったが、今は8割方が自由を求めてであり、北朝鮮に流れ込んでいる韓国ドラマや西側の映画に触発されている。
- ・ ある女性は映画「タイタニック」が北朝鮮で見た中で一番好きな作品だったと言った。

横道にそれるが、タイタニック号沈没は1912年4月15日で金日成の生年月日のまさに同日。北朝鮮ではこれを「西欧資本主義が没落し、東方の朝鮮が勃興することを象徴する」と宣伝していたので、北朝鮮人はこれを知っているし、脱北者の多くが映画タイタニックは見ていたという。宋は十数年前に北朝鮮の歌劇団が日本で公演した際、タダ券を入手して観覧したのだが、映画の主題歌『My heart will go on』がレパートリーにあったのを覚えている。

さらに横道にそれると、韓国から風船を飛ばして映画やドラマを北に送り込んでいるが、脱北者から「今後はCDやDVDはやめて、USBメモリーで送ってほしい」と要望が。取締で踏み込まれても小さくて隠しやすいから。当然でしょうな。

- 韓国政府と韓国社会が言うべきことを言うようになった。脱北者の強制送還をめぐって中国にしっかりものを言うようになった。この問題への関心がいまだ冷めていない。
- 統一への恐怖を追い払うことができた。食えない難民が押し寄せてきたらどうなるだろうかという通念を打ち破り、統一にはそのコストをはるかに上回る利益があることを伝え得た。

シオルティ女史はこのレターを「Many Thanks and Acta Non Verba」と結んだ。

Acta Non Verba「言葉ではなく行動を」。

この夏我々はいかなるアクションを繰り出せるか。

(編集後記)

宋さんが紹介しているスザンナ・ショルテさんはアメリカを代表する人権活動家の一人です。彼女が紹介する映画タイタニックを見て脱北した若い女性の話は大変興味深いです。今回1997年に大ヒットした映画タイタニックを観てみました。乗客2228人中生存者は705人とか。パソコンで調べてみたら、タイタニックを素材にした映画は沢山あることを知りました。宋さんの一文で、北朝鮮ではタイタニック号事件が評価されているとすれば、亡くなった金正日は映画好きでしたから、1997年の映画タイタニック(約190分)が北の社会のなかで合法的に見ることができたかも含め、タイタニックは北朝鮮の人々の救出のシンボルになるかもしれません。特に強制収容所に囚われている約20万といわれる人々の救出の。少なくとも北の人々と私たちの共通語、共通の関心事になるとすれば、これを活かしたいと思います。今年はタイタニック100年です。上記映画は貸しビデオ屋で借りることが出来ます。私は今回始めて観て、大変な感動を受けました(小川 晴久)